

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 256 号	氏名	加藤 滋子
学位審査委員	主 査 関根 一郎 副 査 下川 功 副 査 大園 恵幸		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価 肥満が慢性腎臓病（chronic kidney disease: CKD）の予備集団として注目され、肥満関連腎症として報告されるようになったが、病理学的検討の報告はこれまでほとんどない。肥満が CKD の組織像にどのような影響を与えるかを明らかにするために、CKD の肥満症例について腎組織像の解析を行うとした研究目的は明確である。</p> <p>2. 研究手段に関する評価 1997 年～2007 年に検索された 16 歳以上の腎生検症例約 2500 例のうち、非腎炎群（non-GN）および CKD 3 群（1. IgA 腎症、2. 良性腎硬化症（benign nephrosclerosis : BNS）、3. 菲薄基底膜病（thin basement membrane disease : TMD））を選択し、肥満に関しては非肥満群、軽度肥満群、高度肥満群に分類し、組織学的に検討している。糸球体病変の顕微鏡的、電顕的観察方法、また臨床事項との対比など、研究手段・手法は妥当であった。</p> <p>3. 結果・考察の評価 今回の研究により、non-GN 肥満群は肥満関連腎症に相当し、また CKD における肥満の影響は IgA 腎症と BNS（benign nephrosclerosis）に認められ、臨床的には蛋白尿の増加と腎機能低下例の増加を示し、組織学的に肥満による糸球体病変が加味されると考えられたと結果付けている。 以上の如く、本論文は慢性腎臓病の腎病変に与える肥満の病理学的影響を明らかにし、肥満と腎障害に関する研究に貢献すること大であると評価され、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			